

日時：平成 26 年 8 月 23 日（土）

13:30～16:00

場所：足利市民プラザ 文化ホール

平成 26 年度

地方分権・地方自治フォーラム

地方分権・地方自治フォーラム 第2部 パネルディスカッション

テーマ：「きらりと輝く自治の姿」

パネリスト：田村 秀 氏（新潟大学法学部長・教授）

福田 富一 氏（栃木県知事）

和泉 聡 氏（足利市長）

○司会

それでは再開してまいりたいと存じます。第2部「きらりと輝く自治の姿」をテーマに、パネルディスカッションを行います。

本日のパネリストの皆様をご紹介します。パネリストは、基調講演に引き続きまして田村秀先生、福田富一栃木県知事、和泉聡足利市長でございます。田村先生には進行役も併せてお願いしたいと存じます。

それでは、田村先生よろしく願いいたします。

○田村教授

それでは、私が基調講演に続きましてパネルディスカッションでの進行役を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

きょうのパネルディスカッションですが、「きらりと輝く自治の姿」というタイトルで、大きく3つの話題に分けて、福田知事さん、和泉市長さんにそれぞれのお考えを伺いながら進めていきたいと思っております。

【知事は栃木県を、市長は足利市を、それぞれどのようにみているか？】

○田村教授

まず話題の1つ目です。皆さん方のお手元の青い紙の裏にも書いてありますが、地方分権・地方自治ということを議論するに当たりまして、知事さんであれば栃木県を、市長さんであれば足利市をどのように見ているか。現状について、それぞれのお考えや認識などをお聞かせいただければと思います。まず福田知事さんからお願いいたします。

○福田知事

栃木県は、皆さんご存じのとおり、まずは豊かな自然に恵まれています。それから産業構造のバランスがとれている。3つ目に優れた歴史と文化に恵まれていると言えると思っております。

その中で、豊かな自然ということにつきましては、例えば国立公園面積は全国で4番目に多い。日光国立公園は、奥日光がラムサール条約の湿地に平成17年11月に登録になっ

ています。華厳の滝は日本三名瀑の一つです。最近では、那須の御用邸の一部が、今上天皇在位 20 年ということで「那須平成の森」として開設されて一般に開放されました。加えて、平成 24 年 7 月には渡良瀬遊水地がラムサール条約の登録湿地になりましたので、栃木県には 2 カ所の登録湿地があることとなります。

自然災害が少ない地域でもあると宣伝してまいりました。しかしこの最後の部分は、3 年続けて竜巻が来ているものですから、言い方を変えなければいけないと思っています。

産業構造につきましては、農業産出額が全国 8 位。これは史上最高の順位でございます。当然、首都圏の食料基地です。イチゴについては、45 年間収穫量が日本一ですし、「いちご王国」とも称しています。新しい品種「スカイベリー」が、いよいよこの 12 月から、3 年間のテストマーケティングを終えて本格出荷になります。カンピョウ、モヤシ、二常大麦は日本一。ニラ、生乳、コンニャクイモは全国 2 位。日本ナシは全国 3 位。温泉トラフグなどの変り種もございます。丘のトラフグです。

足利市におきましては、「麗容」という品種のトマトの栽培が盛んで、JA 足利におきましては「あしかが美人」というブランドで販売しています。イチゴ、キュウリ、ダイコン、ニンジン、ナス、アスパラガス、これらの 7 品目が「あしかが美人」ブランドになっています。これらの農産物を活かして 6 次産業化にも積極的に取り組み始めました。

製造品出荷額は、リーマンショックや震災で若干後退していますが、全国 15 位。自動車につきましては、トヨタ以外の会社は全て、栃木県に何らかの事業所を持っています。医療機器におきましては、東芝メディカルシステムズ、ナカニシ、マニーといった世界的な企業が立地しております。

足利におきましては、シューズ、プラスチック資材、産業資材などが集積しております。

ものづくり産業の競争力の強化をさらに図ってまいりたいと思っておりますし、自動車、航空宇宙、医療機器、光、環境を重点 5 分野として振興を図っているところでもあります。

加えて、地元にあるものを大切にするという観点から「食」をテーマとして、幅広い産業集積を図るという観点から「フードバレーとちぎ構想」を推進しています。6 次産業化を含めて食品関連産業を振興するという事です。益子焼や結城紬といった知名度の高い伝統工芸品もございます。

歴史・文化につきましては、開会のごあいさつでも申し上げましたように、鏝阿寺が国宝に指定されました。全国で 10 番目に国宝の多いのが栃木県です。日光の社寺は世界遺産ですし、ギネスブックに登録になっている日光の杉並木などがあります。那須野御用邸や御料牧場など本県は皇室ゆかりの地でもありますので、「ロイヤルリゾート」という称し方もしております。奥日光につきましては、外国の大使館の避暑地として「夏場は大使館が日光に移る」と言われ、避暑地としても栄えてきました。温泉や自然などとあわせて観光資源がたくさんそろっていると思っています。

先ほど田村先生の話にもありましたが、ゆるキャラグランプリでは「きのまる」が 1 位になり、4 代目の殿堂入りとなりました。50 位以内に、栃木県からエントリーしたゆるキ

キャラが6体入りまして、これは隠れた日本一です。その中で、栃木県のゆるキャラ「とちまるくん」は全国46位でしたが、ことしはグランプリを目指して、この間結団式を行ったところでございます。足利の「たかうじ君」は1,580体のうちの473番ですので、もう少し頑張らないと駄目かなと思っております。現在エントリー受け付け中ですが、先月18日にエントリーいたしまして、県全体で県内からエントリーするゆるキャラを盛り上げていきたいと思っております。

最後に、ブランド力の向上がこれからの課題でございます。何と言っても誠実勤勉ながら引っ込み思案という県民性が災いしているのかもしれませんが、ブランド力が低い。しかし、県民所得は先ほどのデータですと6位で、平成23年度は8位となっています。恥ずかしがり屋、話下手、口が重い。両毛地区は違うのですが、宇都宮以北では栃木弁です。これが恥ずかしいと思っている人がいっぱいいます。即ち、愛着度が低い。結果、日経リサーチの全国順位は43位で、群馬県、茨城県と並んで最下位グループという状況でございます。

しかし、水がいいものですから、酒蔵が多い。38の酒蔵がありまして、知られざる酒どころ、日本酒の里です。

足利におきましては、ココ・ファーム・ワイナリーのワイン。九州沖縄サミットの夕食会、晚餐会や、洞爺湖サミットの夕食会などに使われ、JALの国際線のファーストクラスラウンジでも採用されています。

こういったすごい栃木の実力が内外に伝わっていない状況に不満を持っています。

そして、おもてなしの問題がもう一つの課題としてあります。じゃらんの調査によりますと、魅力的な宿泊施設の多さでは、平成25年度は15位、24年度は7位です。しかし、ホスピタリティを感じたかという項目では、36位、39位。魅力的な宿泊施設はあるが、おもてなしは全くなっていない。県民性がここにあらわれていると思っております。

こういったことから、ブランド力がなかなか高まっていけないという大きな課題を担っておりますので、これらを何とか克服していかなければならないと思っております。実力はあるけれども知られていない。即ち、無名有力県、これが栃木県だと思っております。

○田村教授

ありがとうございます。栃木県というのは、魅力は盛りだくさんですが、ブランド力等で課題があるのが現状ということでございます。引き続き、市長さんから足利市についてお願いいたします。

○和泉市長

東京から東武電車に乗ってきますと、最初に山並みが見えてくると足利。まさに関東平野の終わりのまちなのだといつも思います。日光連山から続く山が我々のまちの北側を占めていて、南には広い平野が広がって豊かな穀倉地帯になっています。真ん中には私たち

のふるさとの川と言っていいかと思いますが、渡良瀬川が流れている。山と川、そして豊かな平野、この3つが非常にコンパクトに箱庭的にあるのが足利です。我々がまちづくりや足利というふるさとを考えると、大切な要素だと思います。

あるものを大切にしていこうという視点が本当に重要なのだということを、田村先生のお話を伺って改めて心に刻みました。まちづくりを考える上で、1つは我々が持っている豊かな自然が大事なキーワードになるだろうと思いました。今日は幾つか写真を持ってきました。

知事や田村先生もひょっとしたらご覧になった機会があるかと思いますが、渡良瀬橋という、森高千里さんが歌に歌ってくれた橋があります。その向こう側に沈む夕日です。足利では、夕日ということをポイントの一つとして、これまであまり言ってこなかったのですが、「夕日がきれいなまち」と森高さんが歌ってくれています。橋の向こうに沈む夕日は、我々のまちを象徴する一つの風景ではないかと思いました。

先日、私の旧知の朝日新聞の仲間が泊りがけで遊びに来てくれたので、早朝6時ごろから、私が自分で運転して市内を急ぎで案内しました。森高さんが歌った電話ボックスが通りにぽつんとあります。今どきなせ電話ボックスが残っているかという、森高さんが歌で歌ってくれているので、NTTも気を遣ってこの電話ボックスを撤去せずに好意で置いてくれているという話です。足利にお見えになった方を連れていくと、案外こういうところを喜んでもらえるんだなと思いました。鏝阿寺やフラワーパークはもちろんですが、こういうところも磨きようによってはまだまだ活かしていけるのではないかと思った次第です。

そして、先ほど来ご紹介いただいていますように、もう一つは歴史と文化ということだと思います。これも、周辺のまちからはいつも、「足利はうらやましいよね」と言われているポイントです。鏝阿寺や足利学校を中心とした、我々が持っている歴史と文化ということだと思います。

ただ、私が足利市民の一員としていつも思うのは、周りの人たちが思っているほど、我々はこの歴史・文化の大切さを感じていないのではないかと。もっともっと感じていいし、ありがたく思っているし、これを活かそうとすべきではないか。周りの人たちに「足利、うらやましいよね」と言われたときに、我々自身むしろきょとんとしているようなところがあります。鏝阿寺や足利学校を中心とした先人たちが残した遺産をもっと強く意識して、まちづくりを考えていくべきではないか。田村先生の「あるものを活かしていく」という視点の中で考えたとき、市長になってからずっとその辺を考えているところでもあります。

3つ目は、我々が持っている観光スポットの豊かさ、多さだと思います。言うまでもなく、フラワーパークには年間100万人を超える人々に来ていただいています。ここ2、3年は、花の咲かない冬の間、夜のイルミネーションで人を集めるという取組も充実してきました。日本最古の学校と言われる足利学校、さらに鏝阿寺。もっと言えば、織姫公園・織姫山を中心にした展望のよいハイキングコースもあります。公園とハイキングコー

スを合わせて、年間 100 万人近い方に来ていただいています。さらに、先ほども紹介いただきましたココ・ファームや、陶器で有名な栗田美術館といった具合に、それぞれが非常に魅力的な観光スポットとして育ちつつあると思っております。

最後に、足利がどのようなまちかということを考えてときに、先ほどの福田知事のお話とも関連してくるかと思いますが、いいものを持っているのに売り込み方が下手だったりします。いい意味では謙虚、奥ゆかしいということの裏返しかもしれませんが、積極的な売り込みが上手でなかったりするところが足利市もあるのではないかと考えています。

その辺を意識して、この4月から市役所の広報課に、シティプロモーションという足利をいろいろな側面から総合的に売り込む部署を立ち上げました。

先ほど出たゆるキャラについても、これまでゆるキャラの扱いについては元々つくった主体である商工会議所が持っていたのですが、それを全部足利市が譲り受けまして、足利市がゆるキャラを売り込んでいく体制にしました。順位が残念ながら 400 位台ということで、きのう記者会見の後に、加盟する新聞記者さんの前で出陣式をしました。私も選挙以来の必勝の鉢巻をして、「たかうじ君」を 100 位以内にという目標を設定して、選挙運動をスタートしたところです。

また、シティプロモーションの効果としては、先日、NHKの連続ドラマのすぐ後にある『あさいち』という番組で、足利市の特集をしていただきました。これも、シティプロモーションという専属部隊が積極的に水面下でいろいろな活動や営業をした中で転がり込んできた話です。

また、そのちょっと前には私がみずから出向きまして、TBSラジオの爆笑問題というお笑いの2人の『日曜サンデー』という、日曜後の午後にやっているラジオ番組にお邪魔して、足利のPRをさせてもらいました。これも、シティプロモーションという専属部隊がいろいろな活動をする中でつかんできた端緒によって、そういう機会をいただいたところでもあります。

足利や栃木県全体のPR下手というところを、何とか積極的に売り込みながら、無名有力県から有名有力県、無名有力市から有名有力市に持っていけるように取り組んでいきたいと思っているところです。

○田村教授

ありがとうございます。私もきのうの夕方、夕焼けが見えるかなと思って渡良瀬橋に行きました。昨日は残念ながら見えなかったのですが。そういう素晴らしい資源をいっぱいお持ちだということに改めて感じたところでございます。

【地域をきらりと輝かせるための取組は？】

○田村教授

知事さん、市長さんそれぞれから、自治体の特徴や話題などをお話いただきました。それを踏まえまして、2つ目のテーマとして、今後に向けて地域をきらりと輝かせるための取組について、できましたら具体的にお話を伺えればと思います。まずは知事さんからお願いいたします。

○福田知事

宇都宮市にデパートが一つあります。東武宇都宮線の終着駅です。北海道物産展とか京都物産展、沖縄物産展のときには、あの辺は大交通渋滞になります。では、北海道のクッキーと那須のクッキー、京都の最中と足利の最中、京都の湯葉と日光の湯波、どっちがうまいか。これは甲乙つけがたいと思います。しかし、名前負けしていますから、みんな一生懸命買ってくるわけです。それがブランド力です。ブランド力が高いところは、たくさん全国や世界に売れる。そこで働いている社員は給料をいっぱいもらえる。あるいは工場を増築して雇用人数も増える。一方で、甲乙つけがたいけれども、ブランド力が低いから、社員も限られてしまう。給料もそんなにももらえない。これはやはり正當に評価してもらべきだと思います。中身や実力が伴わないものはどうしようもないですが、遜色ないものについては、ブランド力をみんなで高めていくことが必要だと思います。その取組をこれから何としても県民を挙げて行っていきたい。

テレビ朝日の『お願い！ランキング』とコラボレーションして映像による発信をしたり、「本物の出会い 栃木」観光キャンペーンを今実際に行っているところです。これから「新とちぎ百選」なども選定して活用していきたいと思っています。

足利におきましては、「映像のまち」構想を基軸にして産業と観光を大胆に変えようとしています。私もこちらに来る前に『バンクーバーの朝日』のオープンセットを拝見してきました。大いに映像をもって世界に情報発信してほしいと期待しております。

それから、これからのいろいろなイベントが栃木県で行われることになります。絶好の機会ですので、これまた200万県民を挙げてこの機会を逃さないようにしていきたい。「ねんりんピック栃木」が10月4日から7日の4日間、栃木国体以来の1万人以上の選手・役員の方々が全国から栃木においでになります。足利の開催種目は何でしたっけ。

○和泉市長

ソフトボールです。

○福田知事

足利にはソフトボールで全国からお見えになりますので、ぜひ、おもてなしの心で接してもらいたいと思います。

来年は東照宮の400年式年祭、再来年は徳川家康公の鎮座400年祭、3年後は技能五輪の全国大会、障害者の技能大会のアビリンピックが栃木県で初の開催になります。

2018年には韓国の平昌で冬季オリンピック・パラリンピックが開催されますので、ぜひ日光のアイスアリーナなどを使ってキャンプ地に活用してもらって現地入りしてもらい、こんな取組もスタートさせました。

その翌年の5年後はラグビーのワールドカップ世界大会があります。これもキャンプ地として名乗りを上げているところでございます。

6年後はご案内のとおり東京オリンピックです。きょう、お手元に資料を配布いたしました。日本語版、英語版などを作りまして、競技団体や各国の大使館などに売り込みをしているところです。選手・役員にオリンピックの大会前に栃木で調整してもらおうということで取組をしていきたいと思っています。1964年の東京オリンピックのときに、ソ連の選手が日光の金谷ホテルに泊まって、バスで県の総合運動公園まで行って練習をしたという実績があります。金谷ホテルの庭で砲丸投げの選手が砲丸でお手玉をしていたのを見た社員が今も健在です。その方は見事に金メダルをとったそうです。今回は、世界各国のお客様を栃木にお迎えして調整してもらえればありがたい。こんな取組もスタートさせました。

そして8年後はいよいよ2巡目の国民体育大会、さらには身体障害者のスポーツ大会が開催されます。こういった大きなイベントを活用しながら、栃木のブランド力を高めていきたいと思っております。

結びに、何度も申し上げますが、県民意識がそのためには必要でございます。

今の流行は森林セラピーです。コンクリートジャングルで生活している人が、週末だけでも栃木の豊かな自然の中、木漏れ日の中を歩いてみたい。タクシーの運転手さんや、駅を降りて雑貨屋さんでハイキングコースの道案内をしてもらおうと、「ところであんた、何しに行くの、あんたどこへ。行ったって誰もいないよ。つまんないよ」ということをおっしゃる方がいます。誰もいないところに来ているのであって、目的が全く違う。人がいっぱいいるところがいいという価値観の相違があります。そういう意識を改革していく必要があると思っております。それが、ふるさと栃木への愛着度ということになると思います。

1月1日から、栃木の地元の酒で乾杯する条例ができました。これは都道府県単位ですと全国で2番目です。地元でつくっているお酒、地ビール、何でもいいから地元のものを使ってください。足利だったらワインでお願いします。ワインを飲めない人は、柚子ジュースとか林檎ジュース、梨ジュースもつくっているわけですから、そういうものをお店に用意してもらってください、こういうお願いをしています。地元のを大切に、郷土愛につなげていく、地産地消を拡大していく、こういう取組が必要だと思います。

7月の都市対抗野球大会で、オール足利は36年ぶり2回目の出場を果たしました。残念ながら初戦で負けてしまいましたが、郷土の誇りですし、栃木力の発信に大きく寄与してくれたと、心から感謝しております。

栃木の魅力を地元の言葉で、栃木弁や足利弁を使って全国に向けて自慢していくことが、非常に大切だと思っております。栃木の魅力ある素材や、それぞれの市町の個性を活かし

た地域づくりの支援を栃木県としては行っておりますし、これからも行ってまいります。住民発案による地域づくり活動などを支援する「わがまち協働推進事業」、中でも、足利市が進めている里山体験を含んだ修学旅行や遠足の受け入れ事業などが成果を上げているところでございます。

県といたしましても、食の街道の中の「足利佐野めんめん街道」、「とちぎ渡良瀬いちご・フルーツ街道」など、その地域ならではの「食」をテーマにした地域づくりにも、皆さんと一緒に引き続き取り組んでまいりたいと思います。

○田村教授

ありがとうございます。まさに盛りだくさんの取組ということですね。もちろん県民意識などの課題もあるでしょうが、様々なことをやられているということで、私も勉強になりました。それでは足利市の取組につきまして市長さんからお願いいたします。

○和泉市長

地域を輝かせるための取組ということで、私がずっとこのところ考えていることがあります。それは、2つのことが大切ではないかと、自分自身では「2正面作成」と言っています。

その1つは、日本の高度経済成長を支えてきた、繊維産業も含めて足利にある旧来の産業やものづくりの力を含めた力を維持し伸ばしていく、これは忘れられないと思います。ただもう一つ、これから、日本全体が残念ながら少しずつ小さくなっていくという時代の中にあっては、それだけではまちづくりは立ち行かなくなるのではないかと。仮に少しずつ人口が減っていても輝くまちの姿をつくっていくには、旧来型の高度経済成長期にあったような産業、プラス、我々が持っている歴史や文化を活かすことを含めたソフトな取り組みが一方で求められていくだろうと思っております。

2つ言ったうちの前半の話でいうと、ニュースでも紹介していただきました新しい工業団地を造成するという取組です。おかげさまで、県の絶大な協力をいただきながら、県駅の南側に約20haの規模で作っていくということで、先日私が福田知事のところに要望書を渡しにいく段階までこぎつけることができました。ぜひ生きのいい企業に来ていただいて、元気なものづくりに弾みをつけたいと思っています。

もう一つ、2番目のところでは、考えられるいろいろな方法があるかと思えます。決して1つではないと思います。そのうちの一つとして私が言い続けているのが、昨年11月に皆さんにご説明した「映像のまち」構想であります。先ほどこのシンポジウムが始まる前に、田村先生と福田知事にも、富田の寺岡に作った『バンクーバーの朝日』のオープンセットを見ていただきました。今日ポスターを持ってきましたが、12月に封切りになる予定です。

今日はこの写真を持ってきたのですが、1920年代のカナダのまち並みを再現したオープ

ンセットです。結構見に行かれた方も多いと思います。1920年代に日本からカナダに移民した日系人たちが野球チームをつくります。最初はとても弱いけれど、日本人らしいバントや盗塁を活かした野球で、カナダ人チームを次々に破っていくという物語のオープンセットで、2億円以上の費用をかけて足利につくっていただきました。足利に出していただいた仕事だけで1億5,000万円もの仕事になったというきっかけになったオープンセットです。これはちょうど野球のシーンを撮っているところの写真です。これも先生と知事に見ていただきました。

先日、8月8日から12日にかけて、一般公開ということで、「どうぞご自由にこのオープンセットを見にきてください」という催しをしました。そのときの写真です。どういうわけか私の頭が写ってしまっています。11日の公開のときに私もお邪魔しました。オープンセットの通りを歩き始めましたら、年のころは40代後半と見られる4人組の女性に声を掛けられました。「もしかしたら、あなた、市長でしょう。その頭ですぐわかるよ。フェイスブック見ているから」と言われました。「どちらから来たのですか」と言ったら、「私は京都、この3人は名古屋」と言っていました。インターネットで連絡をとり合って、郡山で上地雄輔さんのイベントがあって、その帰りに寄ったということでした。

5日間会場を担当していた市の職員に聞きますと、もちろん市内のお客さんも多かったのですが、県外の来場者もとても多くて、熊本、宮崎、広島、大阪、京都、名古屋、静岡、仙台、山形といったところからもたくさんの方に来ていただきました。一日の来場者は最高で2,000人を超えました。足利学校の来場者は土日の平均が600~700人ですから、2,000という数字がいかに多いかということです。

おかげさまで、このオープンセットの会場で市内への案内を用意して、市内にもどうぞ行ってみてくださいと誘導していましたので、足利学校への来場者も3割増しくらいになったということです。

この「映像のまち」構想を考えるとときに大事な視点は、田村先生のお話にも再三出てきますが、「大事なのは箱物やハードではなく魂なんだ」というお話だと思っています。「映像」をキーワードに絡めて人と人をつないでいけたら、この話は私はうまくいくと思っています。

人と人をつなぐというのは、例えばこういうことです。このオープンセットで撮影作業していたときに、オープンセットがある富田地区のご婦人たちが自発的にボランティアで、オープンセットのスタッフや俳優さんたちが使うレンタルのお手洗いを毎日ぴかぴかにされたのです。これは誰に言われるでもなく地元から発生した動きでした。私はその話を聞いてとても嬉しくなって、市長感謝状を差し上げました。こういうことで市民と足利に来ていただいた映像関係者の気持が繋がった、心がつながったという場面ができたと思っています。

「映像のまち」構想を始めるきっかけになったのは、これに限らず、CM制作会社をやられている方とか映画監督がいるからです。実は全編を足利で撮っていただく菊地さんと

いう毛野出身の映画監督がいらして、その方が今度『ディアーディアー』という映画を撮ります。英語で「シカ」という意味です。この間毎日新聞で紹介していただいたので、ごらんになった方もいらっしゃるかもしれません。足利出身の映画監督で、全編を本格的に自分で監督する初めての作品ということで、映画を全部足利で撮っていただくということで今、準備が始まっています。

さらには、『水球ヤンキース』という、土曜日の夜 11 時から毎週やっているドラマがあります。水球をテーマにしたいわゆるスポーツ根性物語です。私も見えています。中島裕子さんとか高木雄也さんとか、先生も知事も恐らく名前を聞いてもわからないと思いますが、ジャニーズ系の俳優さんたちで、実は足利のいろいろな施設を使って、今、撮影作業が放映と同時に並行でやられています。制作会社のほうから「どこで撮っていると細かく言うと人が集まってきてしまうので、市長勸弁してください」という話なので、細かくは申し上げられないのですが、足利のいろいろなところで撮っていただいています。これも全て、人と人です。足利出身の映像関係者とか、1 回お世話になった方からまたお話が行くというように、人と人をつなげたおかげでいろいろな話が舞い込んできています。

実は、映像関係の作業を足利でしたいという問い合わせ件数だけで、今年度(4・5・6・7・8月)まだ5カ月弱ですが、50 件です。去年が 26 件でしたから、倍の問い合わせが足利に舞い込むようになっていきます。実際の撮影件数も、先ほどの『バンクーバーの朝日』を含めて 10 件になっています。去年は 1 年間で 14 件ですから、まだ5カ月ですが、去年をはるかに上回るペースで進んでいるということです。

繰り返しますと、大事なのは人と人をつなげていくことです。まちづくりに意欲のある人、本気を持っている人たちを、映像をキーワードに人と人をつないでいくことが大事だと思っている次第であります。

今たまたま「映像のまち」構想を例にお話ししましたが、まちづくりの一番のキーワードだといろいろな場面で思い知らされるのは、人の心をつないでいくことです。企業誘致という言葉のほかに、人の心を誘致すると書いて「人心誘致」という言い方をする方もいらっしゃいます。私は、人の心を足利に何とか引き付ける、そういう作業の積み重ねがまちづくりにつながってくるのではないかということを思いながら、今まちづくりに取り組んでいる次第です。

○田村教授

ありがとうございます。私もオープンセットを見せていただきました。『バンクーバーの朝日』の放映を非常に楽しみにして、ぜひ見に行こうと思っております。

【きらりと輝く地域づくりのために重要なことは？】

○田村教授

今、知事さん市長さんからもありましたように、まさに盛りだくさんに地域をきらりと輝かせるための取組を既に行っていたり、あるいはこれから行いたいというものがたくさんあるわけです。そういう中で、3つ目のテーマです。元々このフォーラムの趣旨は、地方分権とか地方自治ということですが、きらりと輝く地域づくりのためにいろいろな取組をしようというとき、栃木県や足利市の現状に合わせて十分な対応ができるか、そこがポイントになるかと思えます。地方分権という中では、規制緩和とか国からの権限移譲という形で自由度を高めていく改革、そしてまた地方自治を充実させていくことが求められると思えます。この点について、国に対してもっとこういうことを働きかけたいということなどを、知事さん、市長さんからお伺いしたいと思えます。まず知事さんからいかがでしょうか。

○福田知事

ことしの6月、第1次安倍内閣で設置した地方分権改革推進委員会の勧告というものがあります。その中で残されていた課題、国から地方への事務権限の移譲等を内容とする第4次の一括法が公布されたところでございます。そういう意味からすれば、地方分権改革は一定の成果を上げていると評価したいと思えます。

また、政府から、地方分権改革推進本部における決定を受けまして、提案募集方式というものが今年度導入されました。地方の意欲や多様性を重視した新たな改革手法であり、国ではなく地方が選ぶ分権改革でございますので、これまた評価をしたいと思えます。7月15日で全国からの1次募集を締め切りました。953件の提案があったそうですが、残念ながら、栃木県からは本県が2件、県内のある市から2件で、953件のうちの4件しか、手挙げ方式で地方が選ぶ分権改革の提案がなされていないわけです。県もそうですが、市町村もこの問題にもっと前向きに取り組んでいく必要があると思っております。

県からの2件につきましては、「土地利用基本計画の変更の国土交通大臣協議の事後報告」と、「福祉施設等の設備運営、職員の配置数の従うべき基準の見直し」の2項目提案しました。片方は、協議などしなくても事前に十分やっているのだから報告でいいでしょうと。もう一方については、地域の実情がますます重要になってくるのだから、「従うべき基準」ではなくて「標準」あるいは「参酌すべき基準」に変更してください、こういう提案を今、国に投げかけています。結論はこれからでございます。こういった取組を地域から行っていく必要があると思っております。

注文をつけさせてもらうとするならば、義務づけ・枠づけの見直しについて、地方の裁量が認められていない項目が多い。地方の自由度が必ずしも高まっていないという面があります。

また、地方から要望が多い農地転用も、市長から新たな工業団地の造成を要望されましたが、当然農地を転用していくこととなります。10年知事職をやっていますが、案件によっては国との協議に5年もかかっているものがこれまでの中にもありました。もう少しス

ピードアップしないと。2ha から 4ha は知事の権限で判を押せることになっているのですが、国が、協議をしろ、協議が整わなければ判を押しては駄目だと言うのです。4ha を超えた場合には、全部国の許可という状況になっていまして、スピーディな土地利用が図れないという課題があります。

それから、ハローワークは国が握っていて離しません。全国知事会としては、ハローワーク業務は都道府県に任せてくださいと言っています。これは、仕事のあっせん・紹介と併せて、その方に例えば県営住宅や市営住宅をあっせんするとか、あるいは保育園や幼稚園を含めた子どもの就学の問題など、密接にかかわる課題が多くありますので、ただ単に仕事を紹介すればいいというものではない。それに附随する業務がたくさんあるので、ハローワークも我々地方が受けますから下さいと言っているのですが、なかなかこれを国が離さないという状態になっています。

栃木県といたしましては、積極的に県内でも分権を進めています。パスポートなどは、昔は県の窓口でしたが、足利市で取得ができるようになりました。戸籍謄本をとらなければなりませんので、県の出先ですと、市役所に行って戸籍謄本をとって、それから手続に県に行くという二重の手間が必要でしたが、今はワンストップでできるようになりました。

動物の死体の処理も県の事務だったのですが、市町村にお願いしています。道路でタヌキが車にひかれて死んでいるというときに、すぐに市や町の近くの支所などから行って動物を回収することができるようになり、非常に観光面からも効果があらわれていると思っています。

屋外広告物もそうです。ピンク看板などの違法看板が出たときに、県がということになると若干時間がかかります。市や町ですと市内・町内に数多くの出先の事務所がありますから、そういうところから行けば撤去も簡単にできます。

住民の皆さんにとって、環境のいいところで生活を送ることができる、あるいはより便利な生活を送ることができるという点で、地方分権というのは自分たちの生活に欠かせません。自分たちの生活に直結するのが地方分権でございますので、「地方分権、そんなものは俺には関係ないよ」という人がいっぱいいますが、そうではない。このテーマは自分たちの生活に直結しているのです。ワンストップで何でも手続が市役所でできるのが一番いいんです。そういうことを目指していかなければならないと思っています。

ただ、田村先生がおっしゃるように、専門性の高いもので1年に1件か2件しか申請がないものについては、県が広域的に業務を担っていくということもあるかもしれません。役割分担をしっかりとしながら、住民の皆さんにとって必要な手続・サービスは、やはり身近な市役所で手続ができるようにすることが重要だと考えております。地方分権はそういうものだということをぜひ頭の中に入れてもらいたいと思っています。

過日、内閣府主催の「分権改革シンポジウム」が6月30日にありましたので、私も都道府県を代表して、栃木県の分権改革の取組について事例発表を行ってまいりました。これからも積極的に、こういった催し物も含めて情報発信を行ってまいりたいと思います。

都道府県と市町村との関係についても非常に重要です。地域における行政を自主的かつ総合的に実施する総合行政主体として、今後ますます市町村の役割が重要になってまいります。繰り返しになりますが、身近なところでサービスが受けられる、これが分権の基本だと思います。

私は知事就任以来、市町村重視の県政を行ってまいりました。事務権限を市町にお願いして権限移譲を行ってまいりましたが、事務移譲した法律数でいきますと、栃木県は全国順位で8番目でございます。4月1日で82本でございます。市町村が自主的に選択できるようにする。一方的に事務を移譲しない、押し付けない。必要な財政的な支援を行う。移譲後のフォローアップなども積極的に行っていくということで推進してまいりました。

合併は進んでいますが、一部を除いて、市町村では骨だなというものがあるわけがございますので、そういったことについては、周辺の自治体と連携して取り組む広域連携も可能になってまいります。それらも含めて、適切なアドバイスをこれからもしてまいりたいと思います。

社会経済活動が広域化・グローバル化する中、経済の活性化や雇用対策、広域防災対策、環境保全、医療、高度なインフラ整備といった広域的で栃木県全体の課題については、引き続き、市町村と連携しながら中心的な役割をこれからも担い続けてまいりたいと思います。

○田村教授

ありがとうございます。特にまちづくりに関する権限をもっともっと移譲するなり、規制を緩和するなりという観点が重要かと思います。それでは市長さんいかがでしょうか。

○和泉市長

地方分権改革という点に関していうと、先ほど知事からもお話がありましたように、大卒では基礎自治体への権限移譲が進んだということに関しては、よかったかなと思っている次第です。

ただ、事務は基礎自治体に下りてきたけれども、財源が伴っていないということもたくさんあります。さらに、まちづくりをするときに、権限が国にあるがゆえに、まちの思いがなかなか通っていかないという場面に出くわすことが非常にあるわけです。

先ほどから農地転用の話が出ていますが、足利の場合は、ご承知のように県境を群馬県と接しています。特に国道50号を走ると、左右の風景が足利から群馬県に入った途端に変わるということがあります。どうしてこうなるのだろうかということを多くの市民が思っていますし、私も市長になる前は素朴な疑問として持っていました。

ただ、市長になって改めて思ったのは、例えば農地を一つ転用するにも、地元のまちの思いだけでは全くいかようにもできない仕組みになっているということです。人によってはこれを「岩盤」、要するに強力な岩が張り付いているような状態だという方もいます。田

村先生からお話があったように、何でもかんでも地方分権ということでなくていいと思いますし、そうであってはならないと思いますが、まちづくりに関する部分は、ぜひ、規制をどうにかする主導権を地元のまちに下ろしていただきたい。そうしないと、なかなか地元がイメージしたまちづくりが進んでいかないのではないかと思う次第です。

もう一つ、分権ということからは少しずれるかもしれませんが。市長になって1年3カ月。幾つかの場面で思ったのは、国なりが、本当に基礎自治体である地方の行政の現場の様子を感じ取っていただけているのだろうかということです。

最近で一番大きな例は、消費税増税に伴う臨時給付金の給付作業です。これは全国1,800近い自治体が皆さん苦勞されている。一律にどなたかに差し上げるという仕組みであれば簡単ですが、今回の場合は所得制限や課税されているかどうかなど、いろいろな基準があります。その基準が、市町村のデータの管理によっては、相当な人数が手作業で照らし合わせないとどなたに差し上げるべきかわからない状況です。足利市でも、相当な職員を使って遺漏のないようにその作業を進めているわけです。

言葉は悪いのですが、国は「やってね」と言えばやれるものだと思われるかもしれませんが、いざやるとなると、市民の一番身近にある基礎自治体にとっては、一つ一つが理屈抜きの時間とエネルギーを伴う作業なのだということが、いまひとつ伝わっていないのではないかという場面があります。地方分権ということを考えるときに、我々現場の持っている空気や現場感をもっともっと国の方にわかっていただきたい。地方からも、その辺はいろいろなチャンネルを通じて、一番住民の近くにいる基礎自治体である我々から事あるごとに現場の実態をお伝えしていかなければならないと思う次第であります。

○田村教授

ありがとうございます。今、市長さんがおっしゃった「現場」ということですが、現場主義は非常に重要だと思います。私も国におりましたが、国というのは何となく頭でっかちなところがあり、いろいろと大きな話や大きなプランを考えたりするのですが、それに基づいて実際に事務をやるのは県だったり市町村だったりします。そしてまた、直接そういうところで住民の方と接するわけです。(国は)具体的に作業する人の思い、まさに現場主義に至らずに理想論だけで物事を進めたりして、いざやってみると現場が混乱する。これは、今までのいろいろな国の政策、特に臨時的に行う政策で多々見られたのではないか。その意味では、現場からもっと問題点や課題を発信することが必要なと私も思った次第です。

まだまだ知事さん、市長さんにお伺いしようと思った項目等もあるのですが、こちらだけで話を進めるより、せつかくこれだけ多くの方が来られていますので、会場からご意見、ご質問をお受けしたいと思います。私の講演に対してでも結構です。

質問される方は、質問内容はできるだけ簡潔にお願いいたします。また、指名された方は、できましたらお住まいの市町村名とお名前、どなたに聞きたいか明らかにしていただ

ければと思います。どなたからでも結構ですのでご意見、ご質問を受け付けたいと思いますが、いかがでしょうか。

○質問

先ほど市長さんが「人の心の誘致」と言われました。足利は、歴史と文化とともに、足利学校ということで教育だと思います。そういった点で、市長さんと知事さんに、先ほど県民性という話がありましたが、人づくりという形では、義務教育もあれば、宇都宮大学や自治医科大学など教育機関もある中で、どういった人づくりをこれからしていきたいのか、ご意見をお願いします。

○田村教授

まず市長さんからお願いできますか。

○和泉市長

まちの元気と学校の元気です。人づくり・教育イコール学校ということになってくると思います。学校の元気とまちの元気というのはいつも連動していると思っています。そういう意味で、いかにまちを元気にするかということは、いかに学校を元気にするか、教育現場を元気にするかということでもあると思っています。

それを考えるときにとても大事な視点だと思っているのは、家庭の教育能力です。しつけを含めて、子どもの学力につながるような基礎的なことを、いかに家庭の場でやれるかが、一つの重要なポイントになってくるのではないかといつも思っています。

その意味では、足利では、家庭教育懇談会という形で、いろいろな地域で年間を通じてお父さん・お母さん方に参加いただいて講演会をしたりワークショップ的なことをして、家庭教育のポイントなどをお父さん・お母さん方にお伝えする場も設けております。

プラス、これは大きな流れの中ではささやかな取組かもしれませんが、知事もされていきますが、私も今年度から「市長塾」という名前で、みずから市内の高校、大学にお邪魔して、自分の人生経験や、今の仕事から子どもたちに伝えたいことを話す場を設けました。その話を聞いて、全部の子どもたちでなくても、何人かの子どもたちが私の話に何かを感じて、将来自分の人生を切り開いていくときのきっかけにしてもらえればという思いで、そんな場を設けました。

あるいは、つい先日は、市内の全ての小学校・中学校の校長先生の前で教育についての私の思いを昼間2時間にわたってお話しし、かつ、夜も食事会という形で全部の校長先生と私とで意見交換する場を設けました。

教育というのは、あるいは人づくりというのは、一朝一夕に何かの結果が出るというものでないと思います。絶えることない努力を続けることが大事だと思っております、いろいろなチャンネルを通じて取り組んでいきたいと思っている次第です。

○田村教授

ありがとうございます。知事さんいかがでしょうか。

○福田知事

『とちぎの子どもの基礎・基本』ということで、県教育委員会が市町村教育委員会にお願ひして、義務教育が終わるまでには最低限身に付けなければならないこと、その中には挨拶なども含まれていますし、県民の歌を覚えるといった、郷土愛に結びつくような学習を義務教育の中で行うということで取組を開始しています。

また、総合学習の時間などに使っているのだと思いますが、『郷土の偉人』という副読本を用意しました。例えば巴コーポレーションという会社があります。これは建設会社で、スカイツリーの3本の柱のうち1本をつくった会社です。創業者は上三川の方ですか。その生い立ちや成功するまでを副読本にして、足利の子どもたちにも学んでもらっているはずでございます。郷土の偉人について理解を深めてもらう。

それから、市長がおっしゃいましたように、私自身も、高校生や大学生との意見交換会や、フォーラムを行っております。

また、学力という点では、今年度からスタートしましたが、国の共通学力試験は小学校6年生と中学校3年生だと思いましたが、栃木県としては小学4年・5年と中学2年、新たに小中学校3学年分、共通テストを一緒に行うようにしました。きょうの新聞に載っているとありますが、学力差を学校ごとに整理して、教え方・教材が問題なのか、先生の能力が問題なのかといったことを突き詰めて、全体的に学力を高めるという新しい仕組みを今年度からスタートさせて、まさにこれから結果を活かす段階に入っております。

さらに、高校生や大学生という段階では、グローバル社会にありまして、私学も含めて高校生の海外留学を県が応援する仕組みを昨年からスタートさせました。1週間から2週間のショート、あるいは1カ月以上の長期を含めて、年々、高校生が海外に行かなくなる傾向が顕著になってまいりましたので、高校生のときから海外で学ぶ機会をとということで、公立私立合わせて県が財政的な支援を行っております。グローバル人材育成の高校生版です。

4年制大学・短大は17ありますが、そこで共通のカリキュラム・方向性をつくってもらいまして、グローバル人材の育成講座を今年度からスタートさせました。県内の事業所で海外に支店・営業所を持っているところはたくさんあるわけですから、来年度以降は、インターンシップとして、直接海外の事業所等で語学を学びながら仕事の手伝いをして見聞を広める。こういった栃木県出身の大学生支援のプログラムを今年度からスタートさせました。

心の教育を図りながら学力も高め、なおかつ、国際的に活躍できる人材を育成する取組みの強化を図って、スタートさせたところでございます。

○田村教授

それでは、時間もまいりましたので、質疑についてはこれに終了とし、最後に知事さん、市長さんから一言ずつ、このフォーラムの締めとして話をいただければと思います。それでは福田知事さんお願いします。

○福田知事

今、和泉市長からもお話がありましたが、人づくりというのは、それがキーワードになるわけです。地域を輝かせるためには、地域で活躍する人がいなければならない。担い手、即ち人づくりです。地域や家族のつながりが希薄化している中、地域コミュニティの衰退も懸念されております。

そこで、若者、女性、高齢者、障害者と、多くの主体の意欲のある人全てが社会参加して、支えられる側ではなくて、地域社会を支える側の人数をふやしていくことが、これからの時代は特に必要でございます。

若い人たちについては、都市部への流出に歯止めをかけ、地方への移住を促進することも不可欠でございます。そのためには、先ほど来お話がありましたように、雇用を生み出す場、即ち産業振興や戦略的な企業誘致、子育て環境の充実などを総動員して、栃木の総合力を高めていく必要があります。

高齢者の方々につきましては、社会を支える人という立場で、長年培ってきた知恵・能力を十分活かしてほしいと考えています。外国には「高齢者の方が亡くなると図書館が1つ消える」こんな言葉があるそうです。高齢者の方は非常に重要な役割を担ってくれるわけですので、その能力を、支える側で大いに活かす場を設けていきたいと思っています。そのため、栃木生涯現役シニア応援センターを10月1日にまず1カ所設置しまして、ボランティアから就労まで、多様なニーズにワンストップで応えていきたいということで今計画しております。

国の「日本再興戦略」におきましては、女性の活躍を推進することが成長戦略の鍵に位置づけられています。これまで以上に女性はその能力を最大限発揮できるような環境を整えていく必要があります。そこで、栃木県といたしましては、県内で活躍する女性を中心に女性活躍推進会議を設置して、7月17日に第1回会議を開催しました。女性の活躍推進に向けた提言をまとめてもらうことにしております。

こうした仕組みを作っていくことを通して、全ての人が持てる能力を十分発揮でき、さまざまな分野で活躍してもらえらる社会を作っていきたいと思っております。

結びに、行政の取組もさることながら、地域が真に輝くために最も重要なのは、県民の皆さん一人一人が、自然や歴史・伝統にはぐくまれた地域固有の価値に誇りと愛着を持ってもらうことが重要だと思います。自治体やまちづくり団体、NPOなどの活動に積極的に参加して、その中でお互いに知恵を出し合って、汗を流して協働しながら、地域の課題や多様なニーズに柔軟に対応していくことが求められております。地域のさまざまな課題

について一人一人が考えて、みずから判断し解決に向けて取り組むことができる、これが地方分権改革の発想の原点であります。自分たちで解決していくということが地方分権改革の発想の原点であります。

地域の自由度を高めるため、私も、全国知事会などを通じまして、地方分権改革の一層の推進に取り組んでまいりますし、国にもさまざまな提言をぶつけてまいりたいと考えておりますので、皆様方にも、自分たちの地域のあるべき姿、自分には何ができるかなどについて考えていただきながら、協働のまちづくりに参加をぜひお願いしたいと思います。そのための参加しやすい環境づくりには、我々行政が、和泉市長とも連携をとりながら最大限取り組んでまいりますことをお約束申し上げます。

○田村教授

ありがとうございます。和泉市長さんお願いします。

○和泉市長

まちづくりを考えると常にいつも思っていることの一つに、「市民力」という言葉で私がいつも言っていることがあります。市民の力です。いかに市民力を高めるか。そして、いかに行政職員が市民の間に入って行って市民力を引き出すか、市民力をつないでいけるかが、実はまちづくりにとってとても大切ではないか。

人というのは不思議なもので、人からルールを強制されたり、人が決めたルールを「やれ」と強制されると、そこには不平とか不満しか出ません。そうではなくて、自分たちでこうするとか、自分たちでこうしたいということが出発点になると、そのルールは守られるし、そのまちづくりは紆余曲折があっても必ず進んでいくだろうと思います。

まちづくりを考えると大事な視点は、私は市民力にあると思っています。先ほど来話に出て、知事からも今話が出た人づくりも、まさにそのとおりだと思います。地域を輝かせるためには、市民力を引き出す。そこには恐らくリーダーが必要でしょう。あるいはコーディネーターが必要かもしれません。そういう人たちのところに行政が一緒になって入って行って、市民力をいかに高め、引き出し、それをつないでいけるかということが、いろいろなまちづくりを考えると大切なキーワードになってくるのではないかと思います。

そんな視点で、県の力を借りながら、またいろいろな場面で国の力も借りながら、これからの足利にふさわしい、周辺のまちにはない我々が持っているすばらしいコンテンツ、歴史・文化を含めたいろいろな要素がありますが、それを活かしながら、ぜひ足利にふさわしいまちづくり、まちの姿をこれからも目指していきたい。そんな決意を、今日、田村先生や知事のお話を聞きながら持った次第です。

○田村教授

最後に私から簡単にまとめさせていただきたいと思います。まさに今話がありました人づくり、まちづくりというのは、実は地方自治なのだと思います。そしてまた、地域をよくするための地方分権でなければいけない。そのためには、多くの人が地域のこと、自治体のこと、まちづくりのことに関心を持ち、他人任せではなく自分たちの問題としてお互いに知恵を出し合う。そういう仕掛け、それをサポートする仕組みがますます必要になってくると思います。

以上をもちましてパネルディスカッションを終了したいと思います。福田知事、和泉市長、どうもありがとうございました。

○司会

田村先生、パネルディスカッションの進行をありがとうございました。いま一度、壇上のパネリストの皆様に盛大な拍手をお願いいたします。